

一ダ羅の轉訛なり、又リウダ艸といふものは土荊芥俗清也、四時ともに葉あり、冬月暖處に養ふべし、四月の初芽をきり、玉を付て畦へ栽べし、度々糞汁肥水をそぎ、刈り乾かし、藥用とすべし、實をとり、清明の比にまくもよし、一種山中に松風艸といふものあり、芸香の一種なり、

書婆草

〔大和本草九〕ルウダ 蠻語ナリ、是南蠻ルウダト云、其葉麻及羅勒ニ似タリ、左右ニ缺刻アリ、蠻

醫ゴノンデ用之、腫物ニ葉ヲモミテヌルベシ、ヨク腫毒ヲ消ス、又汗斑ニツクレバ驗アリ、ヘビ是ヲオソル、故ヘビノサシタル所ニ付レバヨシ、凡諸毒虫ノサシタルニ付ベシ、功能多シ、園ニ栽ベシ臭氣アリ、葉零陵香ニ似タリトイヘドモ別ノ物也、中華ヨリ來ル零陵香ハ別也、秋初花サキ、秋季ミノル、春子ヲマク冬ハ枯ル、又宿根ヨリ生ズ、寛永ノ初、此種南蠻ヨリ來ル、中華ノ草ニ非ズ、今處々ニアリ、俗ニ者波三禮草ト云、此草ヲ服スレバ山嵐ノ瘴氣ニ感ゼズ、時疫ハヤル時、此艸ヲ門戸ニカクレバ其災ヲ免ル、熱病時疫又勞瘵ノ病人ヲ介保スル人コレヲオビ、又モミテ鼻孔ニヌレバ染ズ、山ニ入テ此草ヲ帶レバ毒蟲サズ、サシテモハレズ、コレヲ厠中ニ投ズレバ虫生ゼズ、コレヲ食スレバ五辛ノ葷臭ヲ除ク、痘瘡出シキリニ痒ク、百方不效、此草ヲブダウ酒ニテセンジ、瘡頭ニヌル忽效アリ、

〔和漢三才圖會九十三〕者婆草 芸草。音 俗云留字太、蠻語也、能治瘡、疥、避惡虫、俗呼者婆草耳。

按天正年中、蠻人此草將來名留字太、春生、苗似雞腸草及蒿類、而有刻齒甚臭香、至秋不花生、穗實似帶草莖穗、能治瘡疥、折傷、惡腫及惡蟲、被螫者、擣葉傅之、置床褥下、避蚤蠱、納書篋中、蠱不生、字彙曰、芸香草也、可避書蠹、探真、席下能去蚤蠱、爾雅翼曰、仲冬月芸始生、似邪蒿而香可食者、恐此草矣、沈括曰、

豆作小葉生、其葉芬香、秋後葉間微白如粉、今謂之七里香、但此說不當耳、可考。

白鮮

〔本草和名八〕白鮮 楊玄操音 一名羊鮮、一名白羶、陶景注云、氣和名比都之久佐。

〔倭名類聚抄二十〕白鮮 陶隱居本草注云、白鮮一名羊羶、和名比都之久佐、氣似羊羶、故以名之、